

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	薬理学				担当教員名		稲津 正人		
実務経験等		大学医学部教授として薬理学の教育に従事し、基礎医学の教育研究の経験をもとに、当該科目の教育を行う。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト 1 1 版、専門基礎分野第 3 章「薬物と検査の基礎知識」 1 「医薬品の基礎」、2 「重要な医薬品」までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を確認する。									
到達目標		薬理作用や薬物動態に関する理解を深め、薬剤に関する正確な知識を身に付けさせることを目的とする。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第 1 1 版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記	
授業内容											
1	薬物総論					9	一般薬について				
2	薬物の体内動態					10	一般薬について				
3	薬物の投与経路					11	一般薬について				
4	薬物の有害作用					12	薬事法				
5	体液について					13	薬事法				
6	輸液について					14	中毒				
7	自律神経系					15	まとめ				
8	心肺停止と薬物投与										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	検査診断				担当教員名		吉田 和市		
実務経験等		検査診断では、臨床全身麻酔や鎮静法、救急蘇生の実践、循環薬理学の基礎研究の経験を活かし、基本的な患者さんの診断法を主に検査学に焦点を当て講義する。具体的な目標は、呼吸、循環、代謝、麻酔を中心に検査診断学の基礎を理解させることである。また、日本蘇生学会蘇生法指導医としての実績を背景に、救急救命科士における医療事故の防止と救急処置についても理解を深めようになりたい。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト11版、専門基礎分野 第3章「薬物と検査の基礎知識」3「検査」P211～P214までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を評価する。									
到達目標		医療機関で行われる「検査」や救急救命士に必要な「放射線や医療安全」について総合的に理解させる。検査学と疾病は密接にリンクしているため、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患をベースとする生体管理法を学ぶ。 さらに応用として、麻酔科学、救急蘇生学などの全身管理学の実践を理解させることを目標とする。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第1 1 版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		国家試験形式の問題 50問による評価	
授業内容											
1	検査診断総論 検査法の種類と診断法について説明する。					9	全身麻酔法と局所麻酔法、セデーション 麻酔の歴史を概説し、現在の全身麻酔、局所麻酔、セデーションの手順や薬剤を理解させる。特に気道確保法、気管挿管法のコツを学ぶ。				
2	バイタルサインとその解釈 血圧や心拍数測定とその値の評価、動脈血酸素飽和度の測定法と基礎的な理解、体温測定的重要性などを病態と関連させて説明する。					10	感染防御と検査 感染症とその予防法について説明する。 消毒、滅菌法も学ぶ。				
3	血液ガス分析 液ガス分析を理解し代謝性アシドーシス、アルカローシス、呼吸性アシドーシス、アルカローシスを説明する。					11	救急患者の処置 救急蘇生学、救急処置、止血法、AED の使用法を理解させる。				
4	血液検査 血液検査、血液性化学検査を学ぶ。さらに疾病の診断法を学ぶ。					12	放射線医学 放射線の基礎と臨床を学ぶ。				
5	血液凝固検査、免疫血清検査、内分泌検査 血液凝固因子とその検査法を理解し血液型検査法を説明する。内分泌疾患に関して検査と診断法を概説する。					13	放射線の医学への利用 放射線の医学への応用について学ぶ。				
6	心電図検査 心電図の見方、危険な不整脈と処置を不要とする不整脈を鑑別する能力を身につける。					14	医療安全の考え方 医療はリスクを伴う。このリスクを極力減らすにはどのような注意が必要かを事例を参考にし、医療安全の考え方を講義する。				
7	聴診と疾病の診断 聴診の方法を学び心音、呼吸音を図説し、疾病の診断の補助に関して講義する。					15	期末試験対策と国試対策 重要問題の演習と解説を行う。				
8	よく遭遇する救急患者の病態を学ぶ 血管迷走神経反射、過換気症候群、転換性障害、低血糖患者の検査、誤飲や誤嚥の処置などを概説する。										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	公衆衛生学				担当教員名		大木 明日香		
実務経験等		病院救命士として勤務していた経験豊富な教員が、社会と医療及び公衆衛生の基本的な考え方を理解させ、国民の健康及び医療体制、各種保険事業、及び法規について理解させる。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト11版、基礎分野 第1章「社会と医療」・第2章「健康と社会保障」までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。									
到達目標		社会と医療及び公衆衛生の基本的な考え方を理解させ、国民の健康及び医療体制、各種保険事業、及び法規について理解させる。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記	
授業内容											
1	人間と人間生活					9	保健医療制度の仕組みと現状				
2	科学的思考の基礎					10	保健医療制度の仕組みと現状				
3	生命倫理と医の倫理					11	社会保障と社会福祉				
4	保健医療制度の仕組みと現状					12	社会保障と社会福祉				
5	保健医療制度の仕組みと現状					13	社会保障と社会福祉				
6	保健医療制度の仕組みと現状					14	社会保障と社会福祉				
7	保健医療制度の仕組みと現状					15	まとめ				
8	保健医療制度の仕組みと現状										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	環境障害				担当教員名		大木 明日香		
実務経験等		病院救命士として勤務していた経験豊富な教員が、様々な環境変化に伴う各種の疾患と その対応について理解させる。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト 1 1 版、専門基礎分野第 7 章 急性中毒・環境障害のうち、3 「溺水」から 8 「その他の環境障害」を対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果 を測定する。									
到達目標		様々な環境変化に伴う各種の疾患と その対応について理解させる。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第 1 1 版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆 記	
授業内容											
1	異物					9	高山病				
2	溺水					10	減圧症				
3	熱中症					11	酸素欠乏症				
4	熱中症					12	凍傷				
5	偶発性低体温					13	紫外線による障害				
6	放射線障害					14	VDT障害など				
7	放射線障害					15	まとめ				
8	高山病										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	急性中毒				担当教員名		稲津 正人		
実務経験等		大学医学部教授として薬理学の教育に従事し、基礎医学の教育研究の経験をもとに、当該科目の教育を行う。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト 1 1 版専門基礎分野第 7 章 急性中毒・環境障害のうち、 1 「中毒総論」 2 「中毒各論」 までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。									
到達目標		中毒物質による障害の発生機序、病態、症状、所見等について理解させ、観察、評価、処置及び搬送に関する知識を系統的に理解させる。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第 1 1 版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記	
授業内容											
1	中毒総論					9	家庭用品中毒				
2	中毒総論					10	乱用薬物				
3	中毒各論 医薬品中毒					11	中毒総論のまとめ				
4	農薬中毒					12	中毒総論のまとめ				
5	工業薬品中毒					13	医薬品中毒からガス中毒までのまとめ				
6	ガス中毒					14	アルコール中毒から乱用薬物までのまとめ				
7	アルコール中毒					15	ミニテスト				
8	自然毒中毒										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(前期)				担当教員名		大木 明日香		
実務経験等		病院救命士として勤務していた経験豊富な教員が、習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	実習	時間数	180時間	単位数		区分	必修
授業概要		実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。									
到達目標		習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		実 技	
授業内容											
①-1	気道確保想定訓練					①-2	気道確保想定訓練				
①-3	気道確保想定訓練					①-4	薬剤投与想定訓練				
①-5	薬剤投与想定訓練					①-6	薬剤投与想定訓練				
①-7	内因性疾患想定訓練					①-8	内因性疾患想定訓練				
①-9	内因性疾患想定訓練					①-10	内因性疾患想定訓練				
①-11	外傷想定訓練					①-12	外傷想定訓練				
①-13	外傷想定訓練					①-14	外傷想定訓練				
①-15	まとめ					②-1	気道確保想定訓練				
②-2	気道確保想定訓練					②-3	気道確保想定訓練				
②-4	薬剤投与想定訓練					②-5	薬剤投与想定訓練				
②-6	薬剤投与想定訓練					②-7	内因性疾患想定訓練				
②-8	内因性疾患想定訓練					②-9	内因性疾患想定訓練				
②-10	内因性疾患想定訓練					②-11	外傷想定訓練				
②-12	外傷想定訓練					②-13	外傷想定訓練				
②-14	外傷想定訓練					②-15	まとめ				
③-1	呼吸不全傷病者の対応					③-2	呼吸不全傷病者の対応				
③-3	循環不全傷病者の対応					③-4	循環不全傷病者の対応				
③-5	循環不全傷病者の対応					③-6	意識障害傷病者の対応				
③-7	意識障害傷病者の対応					③-8	意識障害傷病者の対応				

③-9	頭痛傷病者の対応	③-10	腹痛傷病者の対応
③-11	腰背部痛傷病者の対応	③-12	失神傷病者の対応
③-13	ショック傷病者の対応	③-14	ショック傷病者の対応
③-15	ショック傷病者の対応	④-1	呼吸不全傷病者の対応
④-2	呼吸不全傷病者の対応	④-3	循環不全傷病者の対応
④-4	循環不全傷病者の対応	④-5	循環不全傷病者の対応
④-6	意識障害傷病者の対応	④-7	意識障害傷病者の対応
④-8	意識障害傷病者の対応	④-9	頭痛傷病者の対応
④-10	腹痛傷病者の対応	④-11	腰背部痛傷病者の対応
④-12	ショック傷病者の対応	④-13	ショック傷病者の対応
④-14	ショック傷病者の対応	④-15	ショック傷病者の対応
⑤-1	外傷の現場活動	⑤-2	外傷の現場活動
⑤-3	頭部外傷傷病者の対応	⑤-4	頭部外傷傷病者の対応
⑤-5	顔面・頸部外傷傷病者の対応	⑤-6	顔面・頸部外傷傷病者の対応
⑤-7	脊椎・脊髄外傷傷病者の対応	⑤-8	脊椎・脊髄外傷傷病者の対応
⑤-9	胸部外傷傷病者の対応	⑤-10	胸部外傷傷病者の対応
⑤-11	腹部外傷傷病者の対応	⑤-12	腹部外傷傷病者の対応
⑤-13	骨盤外傷傷病者の対応	⑤-14	四肢外傷傷病者の対応
⑤-15	皮膚軟部組織外傷傷病者の対応	⑥-1	外傷の現場活動
⑥-2	外傷の現場活動	⑥-3	頭部外傷傷病者の対応
⑥-4	頭部外傷傷病者の対応	⑥-5	顔面・頸部外傷傷病者の対応
⑥-6	顔面・頸部外傷傷病者の対応	⑥-7	脊椎・脊髄外傷傷病者の対応
⑥-8	脊椎・脊髄外傷傷病者の対応	⑥-9	胸部外傷傷病者の対応
⑥-10	胸部外傷傷病者の対応	⑥-11	腹部外傷傷病者の対応
⑥-12	腹部外傷傷病者の対応	⑥-13	骨盤外傷傷病者の対応
⑥-14	四肢外傷傷病者の対応	⑥-15	皮膚軟部組織外傷傷病者の対応
特記事項			

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(後期)				担当教員名		大木 明日香		
実務経験等		病院救命士として勤務していた経験豊富な教員が、習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
年次	3学年	開講期	後期	種別	実習	時間数	135時間	単位数		区分	必修
授業概要		実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。									
到達目標		習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第1 1版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		実 技	
授業内容											
⑦-1	消化器系疾患傷病者対応					⑦-2	消化器系疾患傷病者対応				
⑦-3	泌尿・生殖器疾患傷病者対応					⑦-4	内分泌疾患傷病者対応				
⑦-5	内分泌疾患傷病者対応					⑦-6	血液・免疫系疾患傷病者対応				
⑦-7	筋・骨格系疾患傷病者対応					⑦-8	筋・骨格系疾患傷病者対応				
⑦-9	小児の疾患傷病者対応					⑦-10	小児の疾患傷病者対応				
⑦-11	高齢者疾患傷病者対応					⑦-12	高齢者疾患傷病者対応				
⑦-13	産婦人科傷病者対応					⑦-14	産婦人科傷病者対応				
⑦-15	精神疾患傷病者対応					⑧-1	中毒傷病者対応				
⑧-2	精神薬中毒傷病者対応					⑧-3	睡眠薬中毒傷病者対応				
⑧-4	ガス中毒傷病者対応					⑧-5	自然毒中毒傷病者対応				
⑧-6	家庭用品中毒傷病者対応					⑧-7	覚醒剤中毒傷病者対応				
⑧-8	熱中症傷病者対応					⑧-9	熱中症傷病者対応				
⑧-10	高山病傷病者対応					⑧-11	減圧症傷病者対応				
⑧-12	酸素欠乏傷病者対応					⑧-13	低体温傷病者対応				
⑧-14	溺水傷病者対応					⑧-15	まとめ				
⑨-1	心肺停止前の静脈路確保					⑨-2	心肺停止前の静脈路確保				
⑨-3	心肺停止前の静脈路確保					⑨-4	ブドウ糖投与				
⑨-5	ブドウ糖投与					⑨-6	ブドウ糖投与				

⑨-7	気管挿管から薬剤投与	⑨-8	気管挿管から薬剤投与
⑨-9	気管挿管から薬剤投与	⑨-10	多数傷病者対応
⑨-11	多数傷病者対応	⑨-12	多数傷病者対応
⑨-13	多数傷病者対応	⑨-14	現場活動の基本
⑨-15	現場活動の基本	⑩-1	心肺停止前の静脈路確保
⑩-2	心肺停止前の静脈路確保	⑩-3	心肺停止前の静脈路確保
⑩-4	ブドウ糖投与	⑩-5	ブドウ糖投与
⑩-6	ブドウ糖投与	⑩-7	気管挿管から薬剤投与
⑩-8	気管挿管から薬剤投与	⑩-9	気管挿管から薬剤投与
⑩-10	多数傷病者対応	⑩-11	多数傷病者対応
⑩-12	多数傷病者対応	⑩-13	多数傷病者対応
⑩-14	現場活動の基本	⑩-15	現場活動の基本
⑪-1	ビデオ喉頭鏡に必要な知識	⑪-2	ビデオ喉頭鏡の実際と事故対策
⑪-3	気管挿管シミュレーション	⑪-4	気管挿管シミュレーション
⑪-5	総合実習	⑪-6	総合実習
⑪-7	総合実習	⑪-8	総合実習
特記事項			

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	臨床実習				担当教員名		救急 専任		
実務経験等											
年次	3学年	開講期	後期	種別	外部実習	時間数	225時間	単位数		区分	必修
授業概要		各消防本部及び横浜市立大学市民総合医療センター、済生会横浜市南部病院、済生会横浜市東部病院、藤沢市民病院、国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院及び湘南鎌倉総合病院での実習。									
到達目標		習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとため、救急車同乗実習及び病院実習について225時間以上を目標として実施する。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		外部実習先の評価	
授業内容											
1	病院実習					9	病院実習				
2	病院実習					10	病院実習				
3	病院実習					11	病院実習				
4	病院実習					12	病院実習				
5	病院実習					13	病院実習				
6	病院実習					14	病院実習				
7	病院実習					15	病院実習				
8	病院実習										
特記事項		実習回数、実施時間については実習施設の実施形態により異なる。									

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	特別講義				担当教員名		大木 明日香		
実務経験等		病院救命士として勤務していた経験豊富な教員が、国家試験合格をめざし、過去に出題された問題を中心に行い、その解説を含めて効率よく理解させる。									
年次	3学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	120時間	単位数		区分	必修
授業概要		全60回、国家試験対策を行う。									
到達目標		国家試験合格をめざし、過去に出題された問題を中心に行い、その解説を含めて効率よく理解させる。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		特別講義	
授業内容											
1~60	国家試験問題										
特記事項											